

平成 28 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座・准教授
氏名 Name	岡本 真理
専門分野 Academic Field	ハンガリー言語社会論

主たる研究テーマ Principal Research Subject	歴史主義と「民衆」主義の表象
平成 28 年度は主に以下の 2 つの研究活動を行った。 (1) 近代ハンガリーの国民文化形成運動において、歴史主義から「民衆」へスポットを当てたテーマへと変化していく様を、演劇文学において 1840 年代に盛んになった「民衆もの」ジャンルの作品を具体的にとりあげ、そのテーマやプロットの展開、登場人物像を分析した。とくに 1848 年革命の直前・直後に発表された作品に共通した特徴として、①登場人物が革命派と保守派（帝国派）にはっきりと分かれ、主人公は革命派の若者である、②革命の動きと主人公の恋愛の行方が平行に描かれ、恋愛の障害となる人物は保守派であり、政治的な対抗軸ともなっている、③プロットは軽快な展開を見せ、主人公の恋愛の成就と革命の成功によるハッピーエンドが主流であることが指摘できる。今後、作品の紹介と分析をまとめていく予定にしている。 (2) 高等教育におけるハンガリー語教育のあり方について、2016 年 8 月にハンガリー・ペーチ大学で行われた国際ハンガリー学会において、「極東におけるハンガリー語教育・ハンガリー学」と題したシンポジウムで発表を行った。大阪大学ハンガリー語学科のあゆみを、カリキュラム・教材・教員構成などについて詳述し、語学教育や地域研究の環境整備、学生の学習モチベーションから卒業後のキャリア形成にいたる課題について分析した。また、同様にハンガリー語教育に携わる韓国・中国の外国語大学のスタッフとの討論を通して、東アジアにおけるハンガリー語教育、ハンガリー研究の共通課題について検討した。将来の重要なハンガリー学の拠点の 1 つになりうる東アジアの各ハンガリー語学科が、今後も引き続き協働していく道筋を確認した。また、今回のシンポジウムを、ペーチ大学とフィンランド・ユヴァスキュラ大学の共同電子雑誌 <i>Spectrum Hungarologicum</i> に掲載するため、論文 <i>A magyar mint főszak a japán felsőoktatásban</i> にまとめた。	